



大人になること

年に数回、私のもとに海外から手紙が届く。送り主は、私が中学3年の夏にオーストラリアで出会ったある家族。彼らは、片言の英語しか話せなかった私



羽ノ浦町
篠原 早耶さん

に、仕草や表情でオーストラリアの大自然のすばらしさを教えてくれた。空も、海も、山も、吸い込まれるくらい雄大だった。言葉を交わさなくてもその感動を共有できたことは、私にとって貴重な体験になった。

それから4年、あの感動を求めて再び彼らを訪ねた。そこには、以前と変わらない温かいもてなしと雄大な景色があった。ただ、以前ほどの喜びや感動がこみ上げてこなかった。何が違うのだろうか

と、ふに落ちないままオーストラリアを後にする日が近づいた。帰り際、ホストファミリーが私にこう言った。「さやは大人になった」と。その言葉を聞いた瞬間、変わったのは自分だったことに気付いた。大人になるにつれ、英語を流ちょうに話せない劣等感や羞恥心が芽生え、喜びや感動を素直に表現できなくなっていたのだ。

次は、羽ノ浦町の三枝大將さんをお願いします。

市民文芸

短歌

阿南市文化祭短歌大会作品

五体まだ動ける嬉しき
ひとり居の夕餉にひと
品庭のふき苳る

林 満子

子が従きて神妙に夫は
歩行器で部屋内ゆつ
くり夜のリハビリ

吉谷 富穂

実のり田の案山子は
オシャレなカウボーイ
飛び交う雀に何語りしや

近藤美智子

大空にVサイン掲げ
動かざる起重機の前
赤とんぼ舞う

佐野 幸子

成年にならば読まん
と積み置きし西日の
中の戒老の書

小畑 定弘

台風の去るを待ちかね
盆提灯今宵ともすも
妻に詫びつつ

青木新太郎

庭の萩散る秋風が
身にしみて月のひかりに
さらりと触れし

中山 芳子

俳句

阿南市俳句連合会選

池の端に動くものあり
水温む

竹谷 由美

薄氷に閉ぢ込められし
蝸蚪の紐

近藤 まい

たぐり引く鳴門若布の
艶まぶし

奥田 久女

雛祭恋がめばえる
過疎の村

岡本 隆子

独り身の娘の幸祈り
雛飾る

久米 浩一

紅梅や能うかぎりの
花をつけ

瀬藤 豊子

椀のふた取れば木の
芽の香りして

西岡 侃

真つ新たな床に荷を
解く弥生かな

庄野 年美

スカイツリー春のか
すみや天見えず

福島 実

纏い付く子犬ころ
ころ春の雨

田口恵美子

川柳

阿南川柳会 高木旬笑選

取るものは年より
他に見当たらず

佐藤つたえ

抽選日まで良い夢
見てたジャンボくじ

臣守 愛香

あでやかな女よく
見りや喉ぼとけ

鈴木レイ子

ブランドは持つて
ないけど満ち足りる

田上 鶴子

嫁探し乗り気にな
ってている釣書

湯浅 三子